

平成29年度実施

「 青少年に関わる育成・指導者等の
社会貢献に関する調査 」 報告書



一般財団法人 静岡県青少年会館



〒420-0068 静岡市葵区田町1-70-1
Tel 054-255-2566 Fax255-2507
E-mail info@youthnet.or.jp
URL www.youthnet.or.jp

調査名 「青少年に関わる育成・指導者等の社会貢献に関する調査」

実施主体 (一財)静岡県青少年会館 青少年活動研究所

実施期間 平成29年11月1日～12月31日

目的 青少年の健全育成のために、育成・支援団体の献身的な活動が社会に貢献してきた実績は計り知れず、今後益々その民間の力に大きな期待がされている。
しかし、それらの活動は、個々の日常生活の時間的、経済的な自己負担によって支えられきた実態は知られることは少なく、全国的にも調査等が行われてはいない。
(一財)静岡県青少年会館は、青少年育成に関わる育成者・指導者等の日常活動の状況を明らかにし、青少年の健全育成や社会に対する貢献度を明確にし、広く周知してゆくための調査を実施する。

対象 青少年会館に入居する団体の県内在住の育成・指導者

団体名	対象人数
静岡県青年団連絡協議会	150
静岡県レクレーション協会	360
ガールスカウト静岡県連盟	500
ボーイスカウト静岡県連盟	2,334
静岡県子ども会連合会	230
野球連盟静岡(小中学校・役員・審判)	370
静岡県臨床心理士会	550
静岡県青少年会館	50
合計	4,544

方法 対象団体の育成・指導者を無作為に抽出し、配票により調査する。

配布数 300
集計数 242
回収率 80.7%

サンプリングの信頼度

必要な標本数 n	団体加盟 実数	18才以上
母集団の大きさ N	4,544 5%	対象全人口
最大誤差 e	0.05 信頼度95%設定	3,108,544
信頼率に対応する正規分布点 Z	1.96 50%	0.05
予想される母集団の比率 P	0.1	1.96
		0.1

調査 信頼度計算	必要サンプル数
$\frac{4,544}{11.3575} + 1$	135
$\frac{0.345744}{0.345744}$	全体比率
	2.97%

信頼度 上記条件の信頼度を満たしている

配布・回収状況

配布数 300
回収数 242
回収率 80.7%

調査結果

I 特徴

1 対象者			
性別	男性	女性	計
割合	59.1%	40.9%	100
平均年齢	56.9	54.7	56.0

平均年齢が高く、対象者の実感として、高齢化が進み、若い指導者が切望されている。

- 2 青少年期の体験活動
 青少年期に何らかの活動を行っていた者が、86.8%あり、それらの活動が継続して指導者となっていることが分かる。
 青少年活動を行っていたことによって、その後の活動も多岐多様に展開している。
 青少年団体の育成・指導者は、複数の団体において活躍している。平均 1.36団体/人
- 3 指導者等の活動年数
 平均22.7年(男24.0 女20.7)と長期にわたり青少年の指導を行っている。
 青少年団体の場合、青少年期の活動の継続として指導者となる者と、子どもが加入したのちに指導者となる者がある。
 少年団体の場合、保護者から指導者となる者も少なくなく、子どもが退団した後も指導者として継続している者も少なくない。
- 4 指導の対象
 小学生・中学生を指導する者が、81.2%と大半である。
 青少年団体の場合、高校生以上は自主的活動を提唱しており、指導者は少なくなる。
 指導経験の豊富さは、保護者やその他の社会人への指導を合わせて行い、活動の範囲の拡大や手厚い全人教育を目指している。
- 5 組織内活動範囲
 日常的な活動は、地域や市町の範囲が多く、その活動歴によって上部組織での活動へと展開している。
 全国の団体・個人としての活動には、ボランティア団体等の活動で、多様な活動がうかがわれる。
 継続的な活動や、専門的な知識を持つ指導者等は、それまでの活動を活かし、違った分野でも活躍していることがわかる。
- 6 成長の期待点
 「協調性」「人の命を大切にできる心」が、男女ともに70%以上の人があげている。
 従来から活動に期待された「自立心」「リーダーシップ」等が続き、60%ある。
 近年の青少年問題やその課題からか、「コミュニケーションスキル」「個性を大切にできる」などが続いており、青少年の姿を常に見守る姿がうかがえる。
- 7 年間活動日数
 平均活動日数は、74.7日(男72.6 女77.8)と一年の20%を活動に充てていることがわかる。
 年間100日以下とする者が、82.8%あり、余暇活動を超えた献身的な活動を裏付けている。
- 8 個人の経費負担
 活動に要する個人の平均負担額は、95,700円で、個人の経験年数や立場によっても大きく違って来る。
 子どもや保護者の負担を軽減するための財源確保も、事業の一環として取り入れているが、それらの材料にも指導者等の負担となっているケースがうかがわれる。
 補助金等がなく、指導者のポケットマネーで賄われることも少なくないという。
 青少年団体活動を円滑、効果的に運ぶための懇親会やコミュニケーションの場での費用(参加費等)はすべて個人負担となっている。
- 9 みなし経費の試算
 調査結果から青少年団体の指導者等が、事業に係る直接経費以外の旅費や日当など一般に計上はされない経費を、みなし経費として試算すると、全体で30億円が青少年育成に費やされていると読める。
- | | | |
|-----|--------------|----------------------|
| 人件費 | 2,565,767 千円 | (H28平均時給等から算出) |
| 活動費 | 434,663 千円 | (平均個人負担金 × 入居団体指導者等) |
| 合計 | 3,000,430 千円 | 一人当たりの経費 95.7千円 |

10 指導者等のやりがい

95%の人が、やりがいのある活動であるとしている。

こうした善意に支えられて青少年活動が行われている実態が見える。

11 地域での役割(公職等)

青少年指導者は、地域での役職等幅広く担っている実態が分かる。

活動の経験や知識等を活かし、地域等において青少年育成の中核をなしている。

指導者等は、それらの役職を一人あたり3.67件になっており、その多忙さと指導者不足がうかがわれる。

それまでの経験等から広く地域を支え続ける存在という見方ができる。

まとめ

青少年期に活動を行うことの意義とそれを支える存在が明らかとなった。

青少年育成に係る公的支援の経費には、それらを支える指導者等が負担するものは計上されないが、みなし経費に見られる額だけでも、公的支援の額を超えていることは明らかであり、財政的にも社会に貢献する姿となっている。

青少年教育に携わる傍ら、地域を支え想像する集団として社会貢献にあたっている現状は明らかである。

「青少年団体等の指導者・育成者の社会貢献に関する調査」集計結果

I-1 性別

選択項目	人数	構成比
男性	143	59.1%
女性	99	40.9%
計	242	100.0%

選択項目	総計		男性		女性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
19才以下	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
20代	4	1.7%	1	0.7%	3	3.1%
30代	31	12.9%	21	14.7%	10	10.3%
40代	39	16.3%	19	13.3%	20	20.6%
50代	53	22.1%	31	21.7%	22	22.7%
60代	76	31.7%	45	31.5%	31	32.0%
70代	35	14.6%	25	17.5%	10	10.3%
80以上	2	0.8%	1	0.7%	1	1.0%
無回答	2		0		2	
合計	242		143		99	
平均年齢	56.0		56.9		54.7	
最高年齢	82		82		82	
最低年齢	23		32		23	

「職業等」

選択項目	総計		男性		女性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
学生	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
農林業	2	0.8%	2	1.4%	0	0.0%
会社員	91	37.8%	64	44.8%	27	27.3%
公務員	22	9.1%	14	9.8%	8	8.1%
団体職員	11	4.6%	8	5.6%	3	3.0%
自営業	34	14.1%	21	14.7%	13	13.1%
その他	81	33.6%	33	23.1%	48	48.5%
無回答	1	0.4%	1	0.7%	0	0.0%
合計	242	99.6%	143	99.3%	99	100.0%

回答者数 (合計-無回答) 241 100.0% 142 100.0% 99 100.0%

「職種(その他)」の内容

放課後児童クラブ指導員 大学教員 パート 病院職員臨時職員主婦 臨床心理士
 非常勤公務員 会社役員 無職 専門学校職員 自営手伝い

Ⅱ—1 「あなたは、子どものころに加入していた団体やチームがありますか。いくつでも挙げて下さい。」

選択項目 (複数回答項目)	総計		男性		女性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
スポーツ	68	28.1%	43	30.1%	25	25.3%
文化活動	22	9.1%	11	7.7%	11	11.1%
学術・研究活動	2	0.8%	1	0.7%	1	1.0%
子ども会	147	60.7%	78	54.5%	69	69.7%
ボーイスカウト	62	25.6%	61	42.7%	1	1.0%
ガールスカウト	22	9.1%	1	0.7%	21	21.2%
青年団	16	6.6%	7	4.9%	9	9.1%
NPO団体	2	0.8%	0	0.0%	2	2.0%
ボランティア団体	10	4.1%	4	2.8%	6	6.1%
その他	2	0.8%	1	0.7%	1	1.0%
加入していなかった	32	13.2%	18	12.6%	14	14.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	385	159.1%	139	97.2%	93	93.9%

回答者数 (合計-無回答) 242 100.0% 143 100.0% 99 100.0%

「(その他)」の内容

教会の日曜学校 寺院の日曜学校

Ⅱ—2 「あなたは、現在どんな団体等で指導者として活動していますか。いくつでも挙げて下さい。」

選択項目 (複数回答項目)	総計		男性		女性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
スポーツ	13	5.4%	8	5.6%	5	5.1%
文化活動	21	8.7%	14	9.8%	7	7.1%
学術・研究活動	20	8.3%	7	4.9%	13	13.1%
子ども会	40	16.5%	27	18.9%	13	13.1%
ボーイスカウト	116	47.9%	101	70.6%	15	15.2%
ガールスカウト	56	23.1%	0	0.0%	56	56.6%
青年団	4	1.7%	4	2.8%	0	0.0%
NPO団体	5	2.1%	3	2.1%	2	2.0%
ボランティア団体	33	13.6%	13	9.1%	20	20.2%
その他	18	7.4%	7	4.9%	11	11.1%
休止中	3	1.2%	2	1.4%	1	1.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	329	136.0%	186	130.1%	143	144.4%

回答者数 (合計-無回答) 242 100.0% 143 100.0% 99 100.0%

「その他の内容」

地域健全育成会 スクールカウンセラー 学校
 幼稚園、小中高校 子育て支援 中学不登校支援
 小学校のゲストティーチャー 施設での子供の指導 なこ会

Ⅱ—3 あなたは、青少年の指導に関わって、何年になりますか。年数を筆記してください。

選択項目	総計		男性		女性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
5年以下	34	14.0%	17	11.9%	17	17.3%
10年	25	10.3%	13	9.1%	12	12.2%
15年	23	9.5%	15	10.5%	8	8.2%
20年	34	14.0%	21	14.7%	13	13.3%
25年	35	14.5%	21	14.7%	14	14.3%
30年	31	12.8%	17	11.9%	14	14.3%
35年	10	4.1%	4	2.8%	6	6.1%
40年	21	8.7%	16	11.2%	5	5.1%
45年	16	6.6%	11	7.7%	5	5.1%
50年	7	2.9%	7	4.9%	0	0.0%
それ以上	2	0.8%	1	0.7%	0	0.0%
無回答	4	1.7%	0	0.0%	4	4.1%
合計	242	100%	143	100%	98	100%
回答者数 (合計－無回答)	238	100.0%	143	100.0%	95	100.0%

Ⅱ—4 「あなたは、指導者等としてどんな青少年を担当していますか。(兼ねている場合は全てあげてください)」

選択項目 (複数回答項目)	総計		男性		女性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
小学生	197	81.7%	113	79.6%	84	84.8%
中学生	158	65.6%	97	68.3%	61	61.6%
高校生	98	40.7%	60	42.3%	38	38.4%
大学(院)生	40	16.6%	30	21.1%	10	10.1%
社会人	59	24.5%	36	25.4%	23	23.2%
その他	6	2.5%	3	2.1%	3	3.0%
無回答	1	0.4%	1	0.7%	0	0.0%
合計	309	128.2%	122	85.9%	187	188.9%
回答者数 (合計－無回答)	241	100.0%	142	100.0%	99	100.0%

全体のうち 小中高 453 147.1%

「その他の内容」

乳幼児 高齢者 留学生 専門学校生 子どもの親

Ⅱ—5 「あなたは、どんなところで指導者等として活動していますか。(兼ねている場合は全てあげてください)」

選択項目 (複数回答項目)	総計		男性		女性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
地域の団体	188	77.7%	116	79.0%	72	72.7%
市町の団体	110	45.5%	74	51.7%	36	36.4%
県の団体	62	25.6%	38	26.6%	24	24.2%
全国の団体	20	8.3%	9	6.3%	11	11.1%
個人として活動	19	7.9%	10	7.0%	9	9.1%
その他	6	2.5%	2	1.4%	4	4.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	405	167.4%	92	64.3%	129	130.3%
回答者数 (合計－無回答)	242	100.0%	143	100.0%	99	100.0%

「その他の内容」

大学 学校 施設

Ⅱ—8 あなた自身が、活動にで使われる経費について伺います。次の経費等を含めて、年間どの程度の金額になりますか。

選択項目	年間金額	総計		男性		女性	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
会費・活動費・登録費を含む 研修会・講演会等参加費	1万以下	32	14.1%	19	14.0%	13	14.3%
活動費用の援助（私費の持出し等）	5万〃	114	50.2%	69	50.7%	45	49.5%
交流会費（団体懇親会費等）	10万〃	36	15.9%	20	14.7%	16	17.6%
交通費（ガソリン代を含む） その他（可住・夜夜云・助ノ並 等）	20万〃	21	9.3%	13	9.6%	8	8.8%
	30万〃	14	6.2%	9	6.6%	5	5.5%
	40万〃	3	1.3%	2	1.5%	1	1.1%
	50万〃	3	1.3%	2	1.5%	1	1.1%
	60万〃	1	0.4%	1	0.7%	0	0.0%
	70万〃	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	80万〃	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	それ以上	3	1.3%	1	0.7%	2	2.2%
無回答		15		7		8	
合計		242		143		99	
回答者数（合計－無回答）		227	100.0%	136	100.0%	91	100.0%
平均金額（千円）		95.7		91.7		101.5	

Ⅱ—8② 指導者等が、活動のためについやした日数及び、経費の平均値から青少年育成にかける費用を算出する。

区分	年間金額	備考	金額単位：千円 平均単価×指導者等の人数
人件費にかかる費用		対象人数（指導者等）	会館 50
H28平均給与から時給額（円）	1,890	青年団	150
年平均活動日数	74.7	レク	360
対象人数（対象団体合計）	4,544	ガール	500
一日の活動平均時間	4	ボーイ	2334
人件費 計（千円）	2,565,767	子ども会	230
活動にで使われる経費		野球連盟静岡（小中学校・役	370
経費平均金額	95.7	臨床心理士	550 4,544
経費 計（千円）	434,663	対象団体構成人数 × 経費平均額	
青少年育成にかける費用合計	3,000,430	青少年指導者等の活動経費から30億円以上のみ なし経費が例年青少年育成事業に費やされている	

Ⅱ—9 「あなたは、青少年を指導する上で充実感・やりがいを感じていますか。」

選択項目	総計		男性		女性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
大変ある	133	55.9%	84	58.7%	49	51.6%
まあまあある	93	39.1%	51	35.7%	42	44.2%
どちらともいえない	11	4.6%	7	4.9%	4	4.2%
どちらかといえない	1	0.4%	1	0.7%	0	0.0%
まったくない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	4	-	0	-	4	-
合計	242	-	143	100.0%	99	100.0%
回答者数（合計－無回答）	238	100.0%	143		95	

Ⅱ—10 「青少年の指導者の他に、これまで地域・市民団体の役員や公職に就かれたことがありますか。(過去と現在、全てあげてください)」の関係

選択項目 (複数回答項目)	総計		男性		女性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
自治会・町内会の役員	128	61.2%	81	66.4%	47	54.0%
保健、医療、福祉の団体役員	38	18.2%	18	14.8%	20	23.0%
社会教育の団体役員	47	22.5%	30	24.6%	17	19.5%
まちづくりの団体役員	46	22.0%	31	25.4%	15	17.2%
学術、文化、芸術団体役員	17	8.1%	12	9.8%	5	5.7%
スポーツの団体	31	14.8%	14	11.5%	17	19.5%
環境の保全団体役員	12	5.7%	9	7.4%	3	3.4%
災害援助の団体役員	8	3.8%	4	3.3%	4	4.6%
保健、医療、福祉の団体役員	6	2.9%	5	4.1%	1	1.1%
地域安全活動団体役員	21	10.0%	19	15.6%	2	2.3%
人権擁護、平和団体役員	2	1.0%	1	0.8%	1	1.1%
国際協力団体役員	7	3.3%	4	3.3%	3	3.4%
男女共同参画団体役員	15	7.2%	5	4.1%	10	11.5%
青少年の健全育成団体役員	104	49.8%	65	53.3%	39	44.8%
子育て支援団体	18	8.6%	7	5.7%	11	12.6%
科学技術の振興団体役員	1	0.5%	1	0.8%	0	0.0%
職業、雇用支援団体役員	2	1.0%	1	0.8%	1	1.1%
経済活動団体役員	5	2.4%	5	4.1%	0	0.0%
消費者団体役員	5	2.4%	2	1.6%	3	3.4%
市民活動の助言指導団体役員	10	4.8%	8	6.6%	2	2.3%
P T A役員	110	52.6%	48	39.3%	62	71.3%
市町首長	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
县市町の議員	2	1.0%	2	1.6%	0	0.0%
審議会・委員会の委員	31	14.8%	19	15.6%	12	13.8%
保護司	6	2.9%	4	3.3%	2	2.3%
少年補導員	23	11.0%	19	15.6%	4	4.6%
児童・民生委員	12	5.7%	4	3.3%	8	9.2%
消防・水防団	22	10.5%	21	17.2%	1	1.1%
その他	5	2.4%	4	3.3%	1	1.1%
無回答	33	-	21	-	12	-
合計	767	367.0%	464	380.3%	303	348.3%
回答者数 (合計-無回答)	209		122		87	

「その他の内容」

キャンプ場運営委員 交通安全協会 よりあいどころ

Ⅱ—11 あなたは、青少年育成者や指導者の育成について、現状や今後どうあるべきだと思いますか。そのお考えを自由に筆記してください。

回答者数 156 回答率 64.5%
 記述件数 182 (記述された文書内容の数)

分類	項目	指摘件数	%	分累計
課題・問題点	意識に関する指摘	13	5.3	32.7
	指導者不足からの指摘	24	9.8	
	指導者不足の要因	21	8.6	
	加入者の減少(親・子)	22	9.0	
改善点	スキル・意識の向上	21	8.6	37.6
	組織内改革	35	14.3	
	ネットワーク	32	13.1	
	出費・労力の軽減	4	1.6	
活動への理解や協力の必要性		40	16.3	16.3
団体の自主・自立を促す意見		22	9.0	9.0
その他		11	4.5	4.5
計		245	100.0	

記述回答の所見

記述回答で寄せられた意見の主訴により分類し、内容により項目別に細分類している。内容が分類上分かれるか、又は重複されている場合は、それぞれに分類したため、回答件数より分類された意見は多くなっている。

- 1 青少年活動の必要・重要性、関心度などの意識の希薄さを問題として指摘する意見に加え、指導者不足の現状の訴えや少子化に伴う加入者、協力者の減少を問題点として訴えている。
- 2 青少年団体の指導者や育成者は、その活動をとおして見える現代青少年や取り巻く環境を常に注視しており、問題意識を持つと共に、その改善等を視野に入れて活動していることが読み取れる。
- 3 青少年団体活動への行政、保護者を含めた社会全体の不理解や協力のなさを指摘し、支援を要請する意見が多くある反面、自分たちの活動に自信を持ち、青少年団体も自立していかなければならないとする前向きな意見も少なくない。

記述内容

指導者も減り、活動も縮小化していると感じる。青少年育成機関としての行政支援は、いつの時代にも必要視されており、その政策として青少年育成や人づくりが行われてきたが、これからは財政的な厳しさも手伝って、官民連携した地域づくりや社会教育の必要性を掲げて訴えて行く必要があると思われる。

まず、全ての人にどのような働きかけや動きをしているのか、知らせる必要がある。

青少年が活動しやすい環境づくりのために、関係機関等は今後も援助や協力が必要である。

インリーダー、ジュニアリーダーの指導実務経験者を中心に、事業を推進する。

私費で活動に参加する際の実費の部分は自分で納得しているので補助はいりませんが、団体存続のためには、県や国からの助成は必要であると考える。

先輩等の背中を見て育つものだと思ってきたが、育成のための具体的方法論や技術を伝えていかなければならない時代になっている。

世代交代を早期に行わないと確実に衰退する。

指導者が、高齢化しており、若い指導者の育成が必要である。

青少年育成の重要性を、社会一般の関心へもっと喚起すべき。

より一層育成に力を入れるべき。

指導者の高齢化が進む中、もっと若い人の力が必要。そのためにも公的支援を充実してほしい。

団体間の垣根を越えて、協力を強める必要がある。

指導者の高齢化により人手不足となっており、若年層を取り込んで各団体が指導者としてゆく。

極端に少ない体験、対人能力、ボランティア精神など複雑で課題が多い。現在の親世代がすでにこうした状態にあり、その前の世代が元気な今が、最後のチャンスであり、先人に学ぶべきである。

社会教育の観点から、行政や各団体で地域づくりの中心となるべく、十分な協議をし、一体となって指導者等の育成を考え、実行すべきだ。

自分さえよければという考えをする者が多い中、いかに人とのつながりが大切であるかを考えられる人づくりが必要である。

子ども会においては、活性化が必須課題である。研修会は、同じ指導者や育成者が話合う場から、様々な立場の人からの意見や助言、経験談をきき、新しい発想を生み出す機会を増やすべきではないだろうか。

指導者等の会話の時間や回数にこだわりたい。伝えることのスキルアップと、伝えるべきことの大切さを育てたい。

指導者研修会等は、回数よりも濃い内容としたい。

行政と青少年団体が共同して育成研修を行い、その人材を広げることが必要

一般の人が、育成にもっと参加していくと、身近に育成ができると思います。それには、行政側の協力が必要です。

指導者等として、30・40代の人たちが積極的に関わることができるよう、組織体制、運営の工夫が必要である。

青少年育成や指導者等の育成も大事ではあるが、子どもが減り昔のような積極的にいろいろな活動に参加する親が少なくなっており、今後すべての活動において運営が難しくなる。

活動資金不足を解消するための公的補助は必要である。

行政がかかわり、指導者育成、資金確保をサポートする体制づくりが必要。

子供や保護者の考え方、環境の変化等を考慮して、指導者等に今まで通りの考え方や関わりを求めるのではなく、新しい時代に合った対応をすることが必要で、指導者等の自分自身を進化させるための活動が望ましい。

青少年の育成こそが、これからの日本の未来を決める大事なことであり、指導者の継続的な育成が伴います。

行政は、団体の活動に手を差し伸べるべきである。

若年層の凶悪犯罪が増えており、真剣に道徳心の大切さ等を指導すべきである。

研修などを通して指導者や育成者の意見交換の場を設けるなど、つながりを広げていったらいい。

地域にボランティア精神が育っていないと思う。誰かのためというよりも自分のためにならない、お金にならないことはしないという風潮がある。人との関わりに生きがいを感じられるようなアプローチをしていかないと、指導者や育成者は育たないのではないか。

人材育成と発掘をしたい

親の考え方を変えるような活動をすべき

青少年活動を経験していない親に、どのように活動を理解してもらうかを含めた、青少年と保護者も参加できる活動を考えたい。

活動の中において、指導者や育成者が目立っているように思える。もっと小学生(高学年)主体で、行事等を行ってみてはどうか。子どもが「やらされている」と思っているのではないか。

子どもの数が減少傾向にあり、子ども会の継続が困難になりつつあるので、公費での支援事業に取り組んでほしい。

子どもは未来を担う大切な存在、子供が安心して成長してゆくことは、地域にとって必要であり、サポートしてゆくことが重要。

資質、技術、意欲のある人は少なからずいると思うので、啓発や気軽に参加できる工夫をつづけてゆく。

研修を増やし指導者の資質を高めたい。

子どもの教育や体験活動などそれらに関わることも含めて、しっかりとお金をかけて取り組むことは、日本の将来のために必要であると思う。

現在は、個人のボランティア精神に頼っているところが大きいと思う。

活動費用の補助をできるだけお願いしたい。

青少年育成者のネットワークづくりをしたい

意欲や経験、知識のある様々な方々と共に協力し合っていきたいと思っています。

組織として、継続的に指導体制を維持していく必要がある。

青少年育成者や指導者の育成に関する活動がスムーズになされるよう、補助金や公的支援の充実を切に望みます。

様々な人と、情報、ネットワークを柔軟に活用していく能力の開発が、役立つと思います。

地域への貢献は大切であるが、一方で指導者個人のゆとりも欲しいと思う。

指導者や育成方法等を支援する組織が必要。
市民や個人としての意思、意欲が、活動の核にある現状と、それを公的に補助していく度合いやどう実行していくかを、様々なデータと視点から考えていく必要がある。
青少年の心身の発達を育成者や指導者に周知すべきであり、法律等についても学ぶことが必要だと思
地域とのつながりを深め、活動の内容を広く知っていただくことが必要だと思います。
良い大人になるためにも指導者育成は重要である。
自分の立場をよく認識し、いつも向上心を持ち続けていなければ、指導はできないと思う。
子育て世代には、リーダーのなり手やその育成が難しい。
若い世代の保護者を育成したいが、時間が取れないという問題がある。
青少年育成の指導者が高齢化しており、若年層の指導者の育成やボランティア活動への理解を得ら
れるよう支援してほしい。
取得した知識や技術を地域に活かせるように、本人の了解のもと情報公開したらどうか。
青少年団体に加わる青少年が少なくなり、又指導者も働いている人がほとんどの中、内容を改善し、今
の時代に合った方法を考えるべきだ。
現状では、若い人たちが少なく、指導者も高齢化し、活動に費用が掛かるなどの問題はありますが、今後
指導者の育成に力を入れたい。
若い人たちがたくさん育ってくれればいいと思う。
団体の目指すべき姿を明らかにし、指導者の姿勢をはっきりとすべきである。
指導者が高齢化しているので、30～40代を育成したい。
学校とは違う団体に所属することは、とても有意義なことだと思う。しかし、人数は減少し、親が運営に
関わることを負担に思う人たちが増えていることも現実です。
青少年育成講習や事業に参加し、他団体の指導者や個人と交流ができ見識が深まりました。仕事にも
通じることであり、より向上し青少年の育成をしていきたい。
複雑な社会の中で、自分自身を磨いていかなければならない。
多忙な父母が多くて、育成活動への参加が厳しいです。
学校教育のように制限の少ない社会教育は、青少年育成にとっても大切です。
学校、家庭、地域の大人が連携して、子どもたちを指導し支えることが大事である。
若い世代の育成がなかなかできない。仕事との両立が難しい。
現在、指導者の大半が、60歳以上になってしまったのは、女性の社会進出が増加し、職場、家庭だけ
で手一杯な状況だと考える。
指導者となる希望者がいません。青少年の健全育成は、日本の未来であることを理解してほしい。
育成事業に今後携わってほしい人へ、間口を広げPRしてゆく。育てた青少年は将来の育成者とな
ってもらえるよう指導したい。
行動することに、ストレスを感じない人に成長してほしい。
指導者が高齢化しており、どうすれば若い指導者が増えるのか頭を悩ませています。
今の保護者は、育成者にはなりたがらず、自分の子供を預けるだけの人が多いと思う。そのためにお
金を出しているという考えであるなら、当たり前かもしれない。
若い人を育成する必要があるが、そのためには財政的補助が重要である。
時代や環境に合った方法で、育成してゆくべきだと思う。
指導者の時間・経済的負担が大きい。
会員の減少で、指導者の育成まで手が回らない。
青少年育成団体の基本は同じでも、方法や内容が多様化しており、親の考えもさまざまである中、指
導者も忙しく無理もできないので、市町の人口によっては団体も縮小してもよいと思う。
家族での行事を大切に、人のために役立てようとする風潮がある。
子どもが団体のリーダーとなり、これからの日本を支えられるよう、指導者の資質を向上させる必要がある
個人の活動が多い中、地域や年齢を超えた活動を増やしていくことが、これからの子供には必要だと思
若い指導者が育ってほしく、そのような環境がほしい。
青少年の活動場所がほしい、
社会性や心を大切に作るボーイスカウトやガールスカウトのような指導者を社会的に認めるべき
育成、指導者のなり手がいないのが現状で、今後はもっと関係施設を活用し、青少年の育成に力を入れ
なければならない。
若い指導者の活躍できる場を増やすことが必要。
指導者の人材不足に行政の協力が必要である。
指導者の質の担保や活動を広げるためにも、活動や団体を支える体制や支援がないと継続した育成
とはならない。
自分の力をつけ、専門性を磨くためには、経費はかかりますが、自己負担は当たり前だと思いました。
地域の人的資源を知り、日常的な連携にも手掛ける必要がある。

経済的な負担をかけないような工夫が必要。

命について考えられない若い世代の現状に、子育てから真剣に考えていかなければならず、今の大人に原因があると思う。

地域の力はとても大きいので、連携して活動を継続してゆく必要があると思う。

中高年からの育成カリキュラムを設け、多くの人に指導者となる機会を是非設けてほしい。

現代人は、時間、経済的にゆとりがありません。今まで以上に公的支援が必要です。

親子で活動に参加してもらい、親も活動を楽しんでくれ、指導者になってくれる方法はないかと考えている。子どもは地域で育てるものだと思うので、地域の人なら子供の育成者になってほしい。

仕事を持つ人が多く、職場の理解や社会的な理解が必要。

統合、合併で組織の強化を考えてみてはどうか。

親も子ども学校のことを大切に思う気持ち強い

メディアの発達は、人間をだめにしてしまう社会である。

多くの保護者に自分の子以外にも興味を持ってもらいたい。そこから指導者が増えてくると思う。

公私の両立に主眼を置いた、取り掛かりやすいものとするべき。時間、金銭面、場所、回数等

若い指導者、新たな指導者の育成が必要。

現在のスカウトを大学生まで継続活動させ、指導者としていくことが有効だと考えている。

青少年は、学校教育や部活だけでは対応できないところがあり、子どもたちに自由な時間を与え、社会体験や奉仕などを組み込んだ体験を与えるべきだ。

指導者が大変不足している。

若い指導者の育成が重要

子どもや親のニーズは汲みつつ、核心的な部分の方針は貫いて活動をつくってゆく。

指導者の若返りと新しい教育プログラムを作る必要がある。

現状では、指導者の高齢化が進み、若手の育成が重要である。

国や県・市の教育委員と話し合いをすべき。

県連、団運営において、若い人の姿が見えること。

活動経費の補助をすべき

活動に参加しない子供や指導者になりたがらない人が多いので、活動の魅力が伝わる環境づくりのために、地域社会や学校の後押しが必要である。

子どもが少ないと指導者も育たず、子どもを増やすための方法を考えるべき。

青少年団体相互の連携強化、協力の方法を見出すべき

後継者育成が重要

青少年健全育成は、社会教育の立場から行うべきで、学校教育だけでは育てられず、団体の育成をすべきである。

多くの人の支援が必要

活動が、よりしやすくするために公的支援が必要である。

フォーマル教育ではやりきれない青少年への教育について、取り巻く環境からのニーズが高まっているので、ノンフォーマル教育の重要性は、今後も高まっていくと思う。

指導者の高齢化が進んでおり、早めに若い世代への継承が必要である。

顔の見える地域社会づくりが大切で、何かあった時に、お互いに助け合える地域がよいと思う。

これからの時代を担う人たちを育成することは重要なことだと思います。長いスパンで活動していかなければならないと思う。

現状、青少年指導者が育たない環境(少子化、多面的社会、多忙)にある。環境は変わらないので、今後は門戸を広げ、受け入れやすい環境での人づくりが必要である。

青少年団体活動は、絶対絶やしてはならない事業です。

ユース年代が重要な位置にあり、彼らをどうつなぎ育ててゆくかが重要です。

心と技術を中心とした、臨機応変に対処できる力を身につける教育をすべき。現在、頭でっかちな教育になっている。

指導者は、仕事の都合で思うように子供たちと関わるができなかつたり、研修会の日程が合わずに参加できなかつたりしており、WEB研修会などでスキルアップを図るなどの手法をとれば、子どもたちと楽しい活動ができると思う。

指導者個々の考えで指導している現状には問題があり、今後はさらに細かな方針等の徹底が必要であ
手厚い補助があるとよい

指導者になると、経済的、時間的に苦しくなる。

会社(勤務先)へのメリットを生むことも必要と考える。

活動以外にお金や時間を取られ過ぎる。(寄付、奉仕)
特定の人への負担がかかり過ぎる
保護者にスカウティングをしっかりと理解させたい。
若い人を取り入れ、新しいことを取り込みたい。
いろいろな団体の役員、リーダーの高齢化がある
研修会、講演会を定期的開催し、参加者には記念となるものを渡す。
企業の経営者と連絡を取り、協力をお願いする。
指導者の高齢化が進んでおり、早めに若い世代への継承が必要。
更に活動しやすい環境を求めます。
若者が、興味を感じる活動を展開する必要がある。
組織として、次の指導者となる担い手づくりは大きな課題である。
指導者への社会的地位の確保、周知に努力すべき
情報提供、交換などを検討すべき
学識知識だけでなく、体験による知恵や技術の習得を青少年に伝えるためにも、それらを熟知し伝えることのできる指導者の存在は欠かすことのできない重要な役割を担っていると考えます。
若い人たちが活動しやすい、参加しやすい体制が必要
学校の青少年団体活動への協力が必要。
行政等が、情報発信や資金等でもっとバックアップすべき
保護者の社会教育に対する考え方を変える必要がある。
ボーイスカウトは、指導者育成プログラムが充実しており、各自積極的に利用するよう心掛けたい。
多くの保護者や大人たちと共に活動する機会を増やし、より多くの意見交換ができる環境を作っていく。
指導者のなり手が少ないので、あらゆる機会に呼び掛けており、地域行事に参加している保護者に目を向けてほしい。
ボランティア・奉仕団体として、地域、企業等の協力、活動費の提供があったら、指導者も増えるのではないかと思う。
他の保護者にも指導者となるよう呼び掛けたい。先細りしないように。
指導者育成は大切だと思うが、求められることと、負担できることには開きがあると思う。
日常の奉仕に加えて、経済的負担が多く、新しい指導者を探すことが困難である。
保護者は、子どもに即効果が出ることだけに価値を感じており、意識改革が必要。
ボーイスカウト等が、学校で協力する機会が増えたらいい。
スポーツの試合などで朝から晩まで活動することが子供の成長にとってどうなのか疑問である。
スポーツ少年団や中学の部活と同等にバランスよく活動できることを考えたい。
指導者には、活動のために長い休暇が与えられるなど、社会の理解がほしい。
指導者育成においても、公的支援によって活動が制限されないようすることは必要である。
青少年の活動は、じりじりと貧しくなっています。県連の支援が増えれば、いいのではないのでしょうか。
指導者の負担にならないように、周りがサポートする環境づくりが必要。
社会貢献を考えると、老人や障害者などそれぞれの立場があるので、お互いに歩み寄ることが必要。
今の青少年にとって、指導者の助言指導や支援が非常に大切だ。多くの人との関わりの中で、良き社会人となってほしい。
自治体も支援して、リーダーとなるべき人材を育てる
若い世代のリーダーを増やしたい

Ⅱ—12 青少年育成事業にも補助金等の削減や、青少年団体への公的支援にも制約を受けることがあります。こうした状況をあなたはどのように思われていますか。

回答者数 162 回答率 66.9%
 記述件数 193 (記述された文書内容の数)

分類	項目	指摘件数	%	備考
	補助金削減の意見・影響	59	23.5%	
	青少年育成行政への要望・意見	105	41.8%	
	指導者の現状・努力・評価	26	10.4%	
	団体の状況・自主活動への決起	46	18.3%	
	その他	15	6.0%	
		251	100.0%	

記述回答の所見

記述回答で寄せられた意見の主訴により分類し、内容により項目別に細分類している。内容が分類上分かれるか、又は重複されている場合は、それぞれに分類したため、回答件数より分類された意見は多くなっている。

- 1 青少年活動への補助金が、少なくなっていることへの不満や公的支援の必要性を訴える意見が大半を占めていた。
- 2 補助金の削減が、活動に及ぼす状況や社会教育における青少年教育の在り方など、将来への不安を感じている指導者等が多い。
- 3 行政に対する要望や育成方針を問う声、届かない要求などの不満と、さらなる支援の必要性を訴える意見が多い。
- 4 青少年団体の苦しい運営状況や活動の必要性を訴える意見に加え、ボランティア活動の自負やそれらに対する理解と評価が伴った活動でありたいとの意見もある。
- 5 活動の意味や意義をとらえ、苦しい状況の中でも自主的活動であり、他に依存しない運営等の在り方を求めてゆかなければならないという意見も少なくない。

記述内容

子供や老人への福祉政策は語られているが、青少年に対する支援等は希薄なものとなっている。将来を見通した人づくりが重要であり、その投資なしには未来が構築されて行かないと思う。

次代を担う人たちや育成するところからの費用削減を最初に考えるのではなく、その他の無駄な経費の削減を最初にすべきで、見直すところは多いと思う。

将来の国、社会を任せられる青少年の育成に必要な不可欠な費用は、国や地域の援助なしでは成し得ない。人材育成に是非とも援助協力をお願いします。

ゼロベースでの事業の見直しをすべき

青少年団体に関わる将来のための投資を削減するのではなく、他に削るべきところがあると思うが、真剣に考えてほしい。

行政においては、健全育成のための支援に必要性を感じていないのではないかと、思うことが多くなっている。

補助金の不透明さがある以上やむを得ない。

行政は、目先にとらわれず、長いスパンで青少年の育成を考え、そのためにも継続的な補助金が必要である。

社会の関心が薄いと思う。

未来を担う青少年育成は大切です。学歴重視の社会はいかがなものでしょうか？

少子化が深刻化する中では、団体活動の一層の充実が必要であり、次代の担い手がいなくなってしまう心配がある。

行政支援が希薄化することは、団体活動の活性化に逆行となり、強化すべきである。

県・市町の行政支援がないと、活動が限られる。

私の町でも昨年からの活動のための補助金がなくなりました。ボランティア活動とはいえ、行政からも認められていないのではないかと、やる気をなくしました。

昔と異なり、地域の中だけで生まれ、育ち、働くという環境にはないだけに、地域との結びつきは弱くなっている。まして殆どの人が企業人として他で働き、転職することも当然となっている時代に、地域とつながりは益々希薄化し何事にもこだわらない時代である。それでも地域の若者の中には、活動している地域の人財があり、そこでも当たり前という見方をされ、行政支援を減らしているのでは、近い将来地域の活動は成立しなくなり、新たな行政サービスが必要になるという悪循環を招くことが懸念される。青少年は、団体づくり、地域づくりの大切な人材であることを考えると、それらを育成支援しない行政に対して悲しい気持ちになる。

もっと子供の活動に対する補助を考えてほしい。子どものための活動に制約をかけると、地域で若者を育成できず、今以上に自己中心的な人が増えてしまう。

子育て支援、少子化対策、医療費や教育費の無償化等が進む中、青少年活動や育成事業には補助金の削減や行政の協力が制限されています。表向きは、学校や家庭だけでなく、社会教育の充実が必要だと唱えているのに、やっていることは逆行していて矛盾を感じています。

行政資源が減少していることは、仕方ないことだと思います。その分我々ができる範囲で100%の力を発揮できればと思います。

行政支援が減少していることは、残念としか思えません。

団体ができること、行政ができることをそれぞれの立場で考えていただきたい。

ボランティア活動であり、補助金や施設使用料の減免を受けてはいますが、指導者等の持ち出しがあるのが現状です。施設利用料の減免は、活動する上で最も必要な支援であり、これからもぜひお願い子どもたちの健やかな育成を地域が総がかりで行うためには、やはり補助金等の支援が必要であり、是非総合的な支援をお願いします。

活動に経済的・親の負担が増えれば、参加する子どもはさらに減ってしまう。

現状においても資金は不足していて、少なくとも補助金の現状維持をしてほしい。

指導者になる人が少なくなっている現状では、公的支援が大変必要な時である。

教育費無料化に伴い、青少年活動も無償化が必要であり、補助金等を倍額にすべきである。

公的支援によって、指導者の個人的・経済的な負担を減らす必要があります。手弁当で活動している指導者のことを考えてほしい。

子どもには、選挙権がないから、文句を言わないからと言って補助金等を縮小すべきではない。

青少年の育成が重要になっているとどこの行政もすぐ口にするが、具体的な施策もなく真剣に考えているのか疑わしい。

補助金の削減は、事業の中止や活動費の値上げにつながり、会の運営を困難にする。

次の社会を担う人たちには十分な公的支援があるべきだが、削減することは未来の可能性を縮小することになる。

行政は、子ども会の活動が有意義だと認識していると思うが、しかし、会員も少ない一団体に特別視することはできないとよく言われます。

高齢者支援は多いが、次代を担う子供たちへの支援をお願いしたい

公的支援が減少することも時代の流れかと残念に思う。

次代を担う子供たちの育成のために、補助金や公的支援は削減すべきではなく、むしろ増やすべきであらう青少年育成がうまく回らないことは、大変危険である。

次代を担う青少年への投資が、今後の社会を左右すると思います。

必要な事業の支援に制限を明けられたり、中止せざるを得ない状況になったりすることが少なくなく、活動が継続、発展できるよう資金や公的支援をお願いします。

公的支援が減少していることが、大変残念です。

補助金は、大変ありがたいとは思っていましたが、なくなって行くと聞いて、改めて国や地方自治体に支えられ来たことを実感しました。

青少年健全育成事業が、縮小されることはとても残念に思います。

非常に困ります。

青少年育成事業や青少年団体への支援は、必要であり、維持してもらいたい。

青少年を支える取り組みを大切にする。

世の中は、子育て支援に集約され、その後の青少年の育成がないがしろにしているようでは、逆の方向に向いていると思う。

少子化でますます青少年への負担が増えていく中、青少年が健全に育っていく権利を守り、困難な状況にもかかわらず、しなやかに適応して生き延びる力を増進してゆくことが重要であるのに、活動が妨げられることにとても大きな問題を感じる。

適切な事業や有益な事業を行っている団体に対して補助金が支払われるべきです。誰のための事業なのかを考えることが必要だと思います。

行政が、最低限の責任を果たし、その上で民間、関係団体の自治を活かすべき。

予算削減、支援の制約はあるものの、削減ありきという経済的発想ではなく、どんな活動を応援すると、現在、将来に有益かを考えた育成プランが優先されるべきで、支援すべきポイントをまず描き出すべきである。

若い人を育てていくという善意からの活動は、おのずと限界があり、公的支援が継続して、経済的基盤を確保できる活動となることを望みます。

現代青少年の課題や問題がクローズアップされているにもかかわらず、それらの事業や支援が縮小することは、行政の在り方として大変大きな問題であると考えます。

現在の活動を維持、拡大していくときに、補助金等の削減は厳しいと思います。

社会で子供を育てることが、今後も重要になってくると思う。保護者と子供が、孤立しているとても苦しいです。自治体には、そこまで考えて、予算等の配分を行ってほしい。

公的支援が、少なくなっており大変残念に思う。

青少年のためには、やはり補助金が必要です。制約は、大問題だ。

ボランティア活動の意識が、薄れてきている。

県市町の公的支援が、年々削減されており、青少年育成・福祉に関わる団体をもっとバックアップしてほしい。

青年活動発祥の地と言われている静岡県が、寂しい限りだと思う。

なかなか難しい状況にある。

活動の規模が小さくなり、宣伝もできないので仲間集めが大変である。

今まで無料だった施設が有料になったり、補助金が減らされたりと地域でも実際に起こっている。

益々必要な活動であると感じるのに、制約を受けることで活動の幅が狭まってしまうのは残念。

もう少し支援してほしい

未来をつくる青少年活動が、補助金等の制約を受けることは非常に残念です。福祉等と同じ価値を持ってほしい。

少子化なので、今までの団体を整理し、本当に大切な活動、団体なのかを考え、青少年を育成してゆくことが大切だと思う。

青少年団体は、ほとんどがボランティアで活動し、補助金等を子どもたちの育成に携わっているにもかかわらず、削減するということは、子どもを育てる気がない社会と言わざるを得ない。

ガールスカウトは、県全域で活動しており、年間計画、事業の実施など青少年会館は重要な場となっています。今後も子供たちの育成に邁進してゆくために、心おきなく使用できるようお願いします。

現状を受け止めることが大切で、その中で自分たちの活動を支えてゆくのに何をすべきか、会員全員で解決するしかないと思う。ただ、理解者を増やし協力(支援)してもらうことが難しくなっている現状がある。

支援をできるだけ多くいただきたい。

大変困ります。

未来を担う青少年の育成をする上で、公的支援が制限されることがあってはならない。子どもたちが伸び伸びと生活できる環境をつくることが大切である。

青少年活動に参加する子どもが減っており、運営資金を捻出することも難しい状況で、追い打ちをかけるのは、各団体の果たす役割と状況を県はしっかり把握してほしい。

以前は、人数も減っているので多少の補助金の減額はしょうがないと思っていましたが、社会教育の必要性を前面に打ち出している割には、施設閉鎖、補助金の削除と間口が狭まれており、参加費用の値上げは、逆に組織離れが進む一方である。

現状でも指導者不足や活動回数の減少で運営が危ぶまれている。育成事業の継続、拡大のために公的支援をお願いします。

公的支援が減速することは、残念なことだと思う。縮小した分、活動の範囲も狭くなり、内容を充実させられるかは確定できない。

活動資金を得るため、資源回収をしています。しかし、古紙の回収駅が多くなり始めたころから収入が半減しています。

少子化に伴い団体の補助金も減額されている。少子化だからこそ、将来に向けた育成に力を入れてるべきだと思います。

公的支援が削減されることは、非常に残念である。

補助金等の削減は、活動の縮小、育成事業や指導者の経済的負担を大きくするので、これ以上の削減はしないでほしい。

非常に残念なことだと思う。

高齢化社会にあって、少子化問題は深刻な事態です。未来は、青少年の育成にかかっていると思う。行政等からの補助金に頼った活動より、自分たちができる範囲での活動で、内容を濃くすることを考えたほうが良いと思う。

年金生活者にとって、寄付が増えることは大変で、体力的にも無理なので引退を考えている。高齢者や福祉は大切であるが、子ども会や青少年団体をもっと手厚く支援してほしい。指導者のボランティア精神にはもう限界である。

青少年を育成することは未来の日本をつくることであり、青少年団体が十分な活動をするための必要な支援を受けられないことはおかしいと思う。

悲しいです。子どもにはお金をかけてほしいです。

団体の人数や活動回数によって、補助金や支援内容が決まってしまうのでは、必要な活動の縮小にもつながってしまう。

健全なボランティアや青少年団体の活動が軽視されているようで悲しい。

青少年団体への支援の縮小や補助金の削減はやめてほしい。

公的資金に団体側が頼っている状況を変えるべき

行政は、施設利用について、支援をしていただきたい。

当地域は、加入者も少ないので積極的に公的な支援が行えないと思う。加入対象者の8割以上あれば、公的支援をもっと受けられるのではないか。

少子化、核家族化が進む中、青少年育成事業や団体の育成をより手厚くするべきだと思います。

健全育成事業や青少年団体の活動の維持に県税を費やすことは、将来のための投資であると思います。検討、改善を期待します。

成熟した社会で、青少年の育成を妨げるような行政ではあってはならない。

青少年の育成者や指導者として、予算削減や公的支援がなされないことを嘆く前に、現在の青少年課題や将来の在り方自体を真剣に考えるべきで、今回のアンケートがそうした機会となり、役立てばと思資金不足から思ったような活動がしにくい。

青少年のより良い育成のために、行政も理解してほしいが、そのためには活動を知らせていく必要がある。

子育てを充実させるなら、生涯学習団体の社会貢献を考え、手厚い保護が必要である。

参加費等の個人負担が多くなれば、過疎地域ほどその運営、組織維持は困難となる。

なるべく親御さんの出費を軽減しようと努めていますが、厳しい状況です。

子どもをもっと地域で安心して育てるためには、財源も人も必要であり、みんなで協力して安心安全な子育てをしていきたい。

行政の事業の縮小は否めないとしても、せめて団体へは現状維持か、相応の待遇をお願いしたい。

現状を考えると削減は仕方ないと思うが、補助金以外にもいろいろ行政にお願いしたい支援はある。

安心、安全な子育て支援、青少年の育成のためにさらなる公的支援が必要。

活動場所の利用料の無償化は必要だと思う。

行政予算の削減は、青少年育成事業ではなく、別なところに不要な経費があり、まずそこを削減すべきです。青少年育成に行政の支援が、衰退してゆくことに憤りを感じます。

次世代をつくっていく青少年を大切に見守り、育てていく団体を大切にしたい。

補助金がなくなると活動の自己負担が増え、子どもたちも集まらないという悪循環になる。

予算にも限りがあることは承知しているが、行政は各団体から聞き取り調査をしたうえで、補助金の効果的な配分をお願いしたい。

家庭、学校、地域の三者でどう役割分担をするのか、わかりやすくし、納得のいくものであってほしい。

時代は変化しても、次代の育成は必要であり、行政の支援は永遠に必要です。

国は、人づくり革命という立派な政策を打ち出しているが、青少年育成事業の縮小や補助金カットという状況には整合性が見られない。

子どもの育成には、お金が必要です。お金を出せない人たちのためにも補助は必要だと思う。

子どもは、国の礎となり国力となる次世代・未来の宝である。もっとも重要な事業への削減は本末転倒であり、けしからん。

これからの世の中をつくる人たちへの投資であり、縮小や削減はすべきでない。

青少年が減少しており、将来地域に残って活動する人材も少ない。

青少年育成を支援しない行政の在り方に不安を覚え、理解にも苦しむ。

行政の理解のなさが顕著である。

組織内においても、日連・県連・地区の役員が話し合いをしていないと思う。

青少年育成等の社会教育を推進すべきである。青年団の衰退は、若者の社会性を育てる場をなくしており、こうしたことが少年にも蔓延する。

国や県の方針を考えると、青少年を育成しようとする姿がどんどん後退していると感じる。

青少年育成は、本来社会全体(国や県市町)で行うべき活動であるが、それらのほとんどを個人に頼ってきたことは悲しむべき状況である。

活動費がすべて個人負担となれば、誰も活動しなくなると思う。奉仕の気持ちはあっても、お金、財力がないとできません。

青少年育成に力を入れるべきで、老人福祉ばかりに補助するのもよくない。

補助金等の削減は、子どもの数が減少しておりやむを得ない部分もあるが、活動の内容を検討した上での行政には対応してほしい。

少子高齢化の中、予算全体のパイはあるとしても、青少年育成に向けるべき一定の限度はある。

市町でもっと育成事業を重視し実施すべきです。

財政面での制限があることはやむを得ないと思う反面、未来を担う青少年に十分な体験を与えられず、画一的な人材となっていくことを危惧しています。多様な考えを持つ人を認める力、自ら考える力、対応する力など、柔軟に対応できる人材育成をすべきと思う。

公的支援は大事で、必ず将来に向けて役立つので、補助金等の削減はしないでほしい。

公的支援の制約はあっても、活動に制約をつけてはいけません。

青少年の育成は、国、地域社会の発展のために欠かせず、是非行政の支援をお願いしたい。

青少年が、仲間づくりを楽しみと思え、多世代との交流の場に出てきてくれて、みんなと仲良く活動できる地域になればうれしく思います。

活動に参加するボランティアや奉仕している人たちは、無償でしかも自分の時間を割いてまで活動しています。少しでも支援がなければ、励みにもなりません。

個人での資金調達及び活動場所の確保は有限であり、支援に制限があることは、青少年育成に魅力を感じられず、若い指導者を育てられもせず、青少年団体・教育自体崩壊の危険がある。

青少年の育成をないがしろにすることは、悲しいことです。

社会教育は、青少年にとって心を育む教育であり、学校・家庭での教育と並んで重要で、補助金の削減は以ての外です。

未来の人間関係づくりのためにも支援が必要だと思う。

ボランティアばかりに頼る現状では、活動がさらに先細りになる。

「子どもは、未来の宝」を常に意識して活動しています。大人に対する制限は時代的に致し方ないとしても、子どもに対する公的支援の制限は少なくしてほしい。

公的支援は、常にあるとよい。

このままでは、指導者はいなくなると思う。

学校教育への一部参入を目指すことで支援の継続を促したい。

多くの人にボーイスカウトを理解示してほしい。

参加者も少なくなり、活動費はかかるので、補助金があると助かります。

助成があってもなくても活動を続ける

活動には、費用が掛かるため、公的支援をしてほしい。

自立して運営できるように努力する。

青少年育成は、国、地域の発展のため欠かせないものなので、是非支援してほしい。

公的支援の制限は、ニーズに逆行していると思います。

行政が何もかもできるわけではないが、何をするにも個人にあまりに負担が多く、これからの若い人たちが関わることを難しくしている現状がある。

補助金や事業の問題以前に、片手間的な時間しか確保できずに、活動する大人や子供が増えている社会構造自体に問題を感じる。

子どもにお金がかかるので、少子化になっていると思う。

青少年の課題として、コミュニケーションや思いやる気持ちを育むための活動も、指導者や団体の持ち出しには限界があり、行政等からの支援は必要不可欠であり、相乗効果で未来を担う青少年がよりよく育成されるものと信じています。

財団等の活動への積極的な参加が望ましいと思う。

活動をよくしている団体と、そうでもない団体に同じ補助金を出すのではまずい

仕事と社会活動の両立の難しさに加え、価値観の変化も社会参加を難しくしている。

公的支援の削減は、少子化問題は正に逆行している

青少年を育てない地域は、青年期の流出を助長する

学校教育一辺倒から、社会教育の重要性が言われてはいるが、社会教育への公的支援を減少するのでは逆行している。

育成事業は、個人や青少年団体だけでは達成できない。公的支援が必要であり、縮小するのではしょうがない。

子どもたちの育成のための活動に、もっと支援をしてほしい。施設ももっと自由に使用させてほしい。育成事業等が縮小されることは問題である。健全な青少年が育つ環境の減少は、不健全な社会につながるものが心配される。

合理性や費用対効果を理由に青少年育成事業等を削減することが多いが、青少年にはその無駄と考えることが必要な時代だと思う。効率ありきの削減には反対である。

地域に子供が少ないので、学校や自治体の呼び掛けで保護者の理解を得たい。

青少年団体の必要性を地域社会にアピールし、支援を得られる環境づくりが必要である。

補助金削減は、やめてほしい。

どの分野においても、公的支援の少なさを感じる。

必要とされるところに、必要な公的補助はあるべきかと思う。

もっと活動しやすいように支援してほしい。

登録費の軽減や参加費の助成を多くし、指導者の負担を縮小してほしい。

青少年の指導は、ボランティアなので公的支援の削減は大変なこととなる。

補助金等の増加は、未来への投資である。

将来を担う青少年に対して、大人が支援することは重要である。

活動が、ボランティアである以上、施設提供などの公的支援は必要である。

青少年の活動やその必要性を、メディアを使ってアピールしてほしい。

青少年育成の必要性がないという民意であるなら仕方ないですね。

お金のある人だけがいろいろな体験ができ、そうでない人は思うように活動ができないことは悲しいこと。

青少年育成事業費の削減よりも、削減すべき項目はある。

補助金が削減されると、自己負担が増えるので、益々リーダーのなり手がなくなるという悪循環になる。

青少年団体の資金的・人的支援を、公的な支援がなされることが必要である。

調査実施機関

一般財団法人静岡県青少年会館

青少年活動研究所

静岡市葵区田町一丁目70-1

電話 054-255-2566 Fax 255-2507

平成30年2月 発行

E-mail info@youthnrt.or.jp

協力団体

静岡県青年団連絡協議会

静岡県レクリエーション協会

(一社)ガールスカウト静岡県連盟

(一社)ボーイスカウト静岡県連盟

(一社)静岡県子ども会連合会

静岡県野球連盟静岡支部

静岡県臨床心理士会